

1993-1994

3代目井上嘉久会長(能楽)は「共に生きる社会への確かな一歩」をクラブテーマとし、10月24日京都頸損連絡会主催の「ポーダンス運動会」を元初音 中学体育館にて開催支援した。
11月には近江学園園生の作品による「ポーダンス陶芸展」を開催。パランスの取れたクラブ業績に対するRII会長賞を受賞。



近江学園園生の作品による「ポーダンス陶芸展」を開催。園生らと共に会場にて記念撮影。



1993年10月、第1回「ポーダンス運動会」を京都頸損連絡会と共に、全員参加にて競技参加し、さわやかな汗をかきました。以後、毎年10月に開催。



本田浩がハナー公式撮影にて、全員による記念撮影。

1994-1995

4代目佐治寿一会長(人形製造)は「共に分かちあえる心と行動」をクラブテーマに、10月10日、京都頸損連絡会「秋の大運動会」を高野障害者スポーツセンター体育館にて開催支援し、4月ポーダンス陶芸・木工展(近江学園)を開催。5月12-13日青少年プログラム「福井烈火ロケットと学ぶスポーツの楽しさ」をウイングス京都にて、「君はアロのサーフがうけられるかい」をホリデイイン京都室内テニスコートにて開催。社会への思いやりに対するRII会長賞受賞。



1995年5月ホリデイイン京都室内テニスコートでの「君はアロのサーフがうけられるかい」小中学生が身近にアロのプレイを見学、また直接レッスンを授け、記念品のサインボールに全員大感賞の旗を立てた。



福井烈火、竹内コーチをさかんで青少年委員をスタンブール。



青少年プログラムの初日、ウイングス京都において青少年スポーツ指導者を対象に「福井烈火と学ぶスポーツの楽しさ」をテーマにパネルディスカッションを開催。

